



みどりの東北

森林ボランティア巡視員と
清掃登山

津軽森林管理署金木支署

10月6日(木)金木支署管内で森林ボランティアの皆様は協力を頂き、旧中里町の尾別林道側から登る滝の沢ルートから袴腰山山頂を目指し(約1時間半)、ゴミ拾いをしながら体力増進と保健休養を兼ねて清掃登山を実施しました。

前日の天気予報は曇のち晴れ！しかし昨夜からの強い雨は当日の朝でも止むことなく、参加予定者11人(ボランティア巡視員)の中からも当日の朝になりキャンセルされる会員も出るほどの天候でしたが、強者



清掃登山中の様子

揃いであるボランティア巡視員の皆さんは予定通り？出発することになりました。

車中での会話は一向に天気の話



各地からの
便り

は出ないままに車は進み、ついに雨の中を走り続け登山口まで到着！私は恐る恐る悪天候ですので引き返しましょうか？と言いかけたところ、全員がカッパに着替え準備万端の笑顔で待っていましたので、自然と出発することとなったため、私は気持ちを入れ替えて登山することとしました。すると不思議なことに雨が上がり、全員無事に登頂できました。さすがに雨上がりの山頂は雲の中で、目の前は真っ白で風も強く、景色を愉しむことは出来ないままの記念撮影となりましたが、山頂付近の昼食後に下山したところ、雲が晴れ、津軽平野に浮かぶ十三湖と岩木山を少しだけ観ることが出来ました。

登山客のマナーも良いこともあり、

ゴミは少なく無事終了しました。山頂での絶景を観られなかったことだけが悔やまれますが、来年も楽しみだという声を聞きましたので、清掃の意味合いは薄かったのですが登山は成功したものと思っております。

去る9月29日(木)、むつ市大畑町の国有林内にある黒森山に於いて、一般市民を対象に国有林見学会を開催しました。この見学会は、国有林についての理解とイメージアップを図ることを目的に毎年開催しており、今年も青森市内の方を含む28名の

国有林見学会
「秋の黒森山登山」を開催
下北森林管理署



参加がありました。

黒森山は標高420mで、むつ市との間で「遊々の森」協定を締結しているエリアにあります。当日は管理している「下北自然の家」のスタッフに、登山の先導と案内をしていただきました。

ここ数年は悪天候に祟られてきた見学会ですが、今年是好天に恵まれ、参加者の皆さんは軽快な足取りで

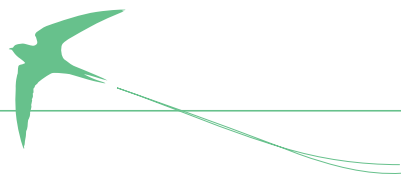


登山の様子

山を登り始めました。しかし途中から急傾斜が続くにつれ段々足取りが重くなり、後半はみな汗だくになっていましたが、小まめに休憩をとりながら約1時間半をかけて全員無事に頂上までたどり着きました。

頂上では疲労困憊といった様子の方もいましたが、展望台から大畑の町並を一望し、達成感と満足感に浸っている様子でした。

下山後は、「下北自然の家」で昼



食をとりながら「遊々の森」制度や「国際森林年」などについて説明を行い、その後、バスで大畑のヒバ施業実験林へ向かいました。

実験林では、長年管理に携わってきた柴田円治さんからの説明を受けながら、施業区の更新状況や無施業区との林相の違いなどを観察



実験林の観察

しました。初めてヒバ林の中に入ったという方も多く、みな興味津々でメモをとったり柴田さんに質問したりで、帰りの予定時刻をオーバーしてしまうほどでした。

自然環境に対する国民の意識の高まりと共に、森林への期待は年々増大しているところですが、国有林に対する認識は必ずしも高くない状況であり、今後このような機会を通じて国有林のPRに努めていきたいと考えているところです。

民国連携による 間伐現地検討会の取組

三陸北部森林管理署



当署では、民国連携による森林整備事業を推進すること、依然として後を絶たない林業における労働災害の未然防止を図ることを目的とし、8月26日(金)に沿岸広域振興局、宮古地方森林組合との共催により、間伐現地検討会を開催しました。列状間伐を実行している宮古市区界の国有林内において市町村担当者、林業関係者など約100名が参加しました。

お盆明けからの長雨のためフォワードによる運材は実施できませんでしたが、当地域の民有林において列状間伐の実施が少ないということで、民有林部局から、伐採率の決定方法、効率的な伐採列の取り方



ウインチ付プロセッサーによる集造材作業

と搬出方法、猛禽類への影響等についての質問や事業実行者からの報告など、効率的・安全な列状間伐の実施について活発な意見が出さ



情報交換と安全指導

れました。その後、場所を公民館に移し、情報交換と宮古労働基準監督署の安全専門官による安全指導がありました。

当署はこれまでも民有部局と年に数回、情報交換を行ってきましたが、今回のような地域の林業関係者が一同に会するものは初めての取り組みでした。

今後、施業箇所での団地化・共同化等の民国連携の礎になるものと確信し、当地域の更なる林業の振興につながるよう取り組んでいく考えです。

大量不法投棄 ゴミ撤去を実施

秋田森林管理署



仙北郡美郷町内の県道花巻大曲線沿い黒森峠付近国有林内で、大量の不法投棄廃棄物(廃タイヤ(約100本)、可燃ゴミ(約2t)、不燃ゴミ(約3t))を撤去するため、10月14日(金)に大仙保健所、横手保健所、美郷町役場、美郷町住民、横手市役所、秋田県産業廃棄物協会、当署の合同で撤去作業を実施。



不法投棄の状況

廃棄物は県道擁壁下6mの急斜面に投棄されており、撤去作業は、人海戦術で廃棄物をコンテナバッグに入れてユニックで吊り上げ回収し、トラックで各処理施設に搬送しました。50m以上も下方へ散乱している廃タイヤなどは、日頃の山登りを生かし当署森林事務所職員が率先して回収し、参加者全員が汗水流しながら全てのゴミを撤去しました。不法な廃棄物投棄は後を絶ちませんが、これからもマナー啓発、巡視に



みどりの東北

努め、関係機関と連携・協力して不法投棄防止活動を行っていきます。

緑の山歩塾第2回及び第3回の開催
(森林ふれあい推進事業)
指導普及課



●第2回緑の山歩塾「秋田の木を巡るツアー」の開催

9月2日(金)、台風12号の接近で心配された雨も幸い回避され、能代市において第2回緑の山歩塾を参加者12名により開催しました。

今回のコースは、仁鮎水沢スギ植物群落保護林↓銘木を使用した住宅の見学↓能代海岸砂防林「風の松原」見学↓「木の学校」での木工体験↓製材所の見学という、木を巡るツアーを企画。

仁鮎水沢スギ植物群落保護林では樹高58mを誇る巨木「きみまち杉」をはじめ樹高50m級の天然秋田杉



仁鮎水沢スギ植物群落保護林

林を前にして、その圧倒的な大きさ等に皆さん大変感動されていました。

「木の学校」では機械を使用する木工体験に挑戦し、スタッフに指導を受けながら様々な形の鍋敷きを製作する姿は、皆さん真剣そのものでした。

最後に秋三銘木(有)の製材所では、普段見られない大径木の丸太や美



秋三銘木(有)を見学する様子

しい製品の数々を見せていただきました。

今回の緑の山歩塾は、少し趣向を変えて木工体験を取り入れるなど、木の良さを身近に体感してもらう参加型とし、参加者の皆さんにも大変好評でした。

●第3回緑の山歩塾「紅葉の鳥海山麓めぐり」の開催

10月15日(土)、山形県遊佐町に位置する二ノ滝溪谷にて、29名が参加して開催しました。

鳥海山の麓にある名瀑「二ノ滝」、

てたくさんの方が訪れる「胴腹滝」を巡るコースで、当日は雨が降ったり止んだりの中カッパを着ての散策となりました。

駐車場で開会式を行い、計画部長からの挨拶や準備体操の後、出発前日からの雨で水嵩が増し、絶壁下に轟音を上げて落ちる二ノ滝や落差約20mの二ノ滝は大迫力で、参加者の皆さんから感嘆の声が上がっていました。

このコースは鳥海山への登山ルート「二ノ滝口コース」の一部でもあるため、険しい登り坂もあり、皆さん心地よい汗を流していました。



散策終了後、ブナ林の前で集合写真

午後には「胴腹滝」に立ち寄り、鳥海山の山腹から湧き出したミネラルバランスの優れた美味しい水を汲んだり、二つの滝からの水を飲み比べたり、鳥海山の恵みを肌で感じていただけたようでした。今後も多く

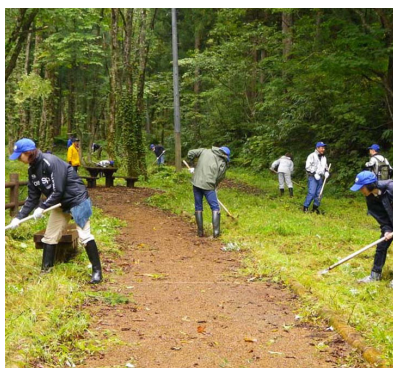
の方々に喜んでいただけるイベントを企画していきたいと思えます。

「仁別国民の森」で
太平山登山口(旭又)周辺の
除草及び清掃実施
指導普及課



10月1日(土)小雨まじりの中、「三者協定活動」をアサヒビール株式会社秋田支社(24名)、仁別森林博物館ボランティア案内人会(7名)及び当局・秋田署(9名)、計40名の参加の下実施しました。

午前中の活動は、紅葉シーズンとなり登山客が増加する季節となりましたが、気持ち良く登山して頂くため、太平山登山口(旭又)の駐車場や東屋周辺の伸びた雑草を刈り払い、隠れていた空き缶などを回収しました。



雑草の刈り払いの様子

午後からは、仁別森林博物館を訪れる方々に樹木の名前を覚えて頂き



みどりの東北

この活動は、アサヒビール株式会社
が全国的に取り組んでいるもので、「森
林環境保全活動等」を通じ、森や水
の大切さを身近に感じて、日々の生
活環境と森林環境との関係について
理解と関心を深めることを目的とし、
協定に基づき年2回(春・秋)活動を
実施しています。

今回で第7回目となりましたが、
次回以降の活動も盛り上げていくこ
とを参加者全員で確認して終了と
なりました。



標柱の杭打ちに挑戦

森に親しんでもらえるよう、樹木名
標柱を約70本設置した後、クヌギ
の苗を樹木園に植樹しました。杭
打ちは、かけやを使って行いましたが、
慣れない道具に苦労している参加
者が多かったようです。

ミニコラム

「へえ〜、そうなんだ!」

カラマツ

落葉松(マツ科)

岩手北部森林管理署 技術専門官

松尾 亨

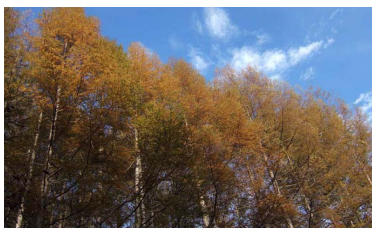
Tooru Matsuo

私 がカラマツを好きな理由は、四季を通した林の明る
い雰囲気かな!新緑のまばゆさ、盛夏の木陰、黄金
色の秋、静寂の冬・・・森を歩いていると「北の国から」のテ
ーマを口ずさんでしまいそうな、カラマツを紹介します。

樹木の特徴は、樹高は35~40m、胸高直径で1m程になり
ます。葉は2~5cm程の針形で束生します。花は、写真のよう
にクラゲを逆さにしたようなピンクの雌花と、薄茶色の雄花が
開葉前に咲きます。顕微鏡で拡大した写真では雌花のひだと、
雄花に花粉壺がみえます。受粉後球果は成長し、初夏には

小型のパイナップルに似た形に成長します。葉は10月中旬か
ら黄葉し始め、黄金色に森全体を染めてラストは、雪のように
落葉する針葉樹では珍しいタイプです。

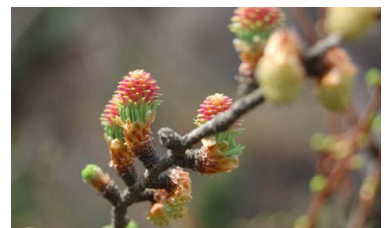
カラマツ材は、かつては製材した際に「よれる・われる・やに
が出る」等で評判が悪かったのですが、今では集成材や合板
技術の開発で、明るい板目が好まれ、また腐朽性も強く引く手
もあまたです。間伐時代に売れ筋に変化して良かった!時代
の変遷とともに価値や評価も変わりますが、スパンの長い林
業のように、人も森も「永い目」で見てもね。



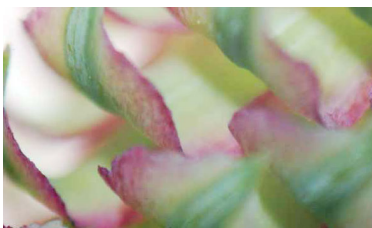
黄金色のカラマツ林



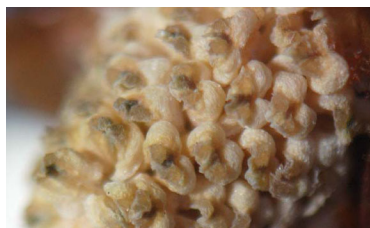
盛夏のカラマツ林



カラマツ開花



顕微鏡で拡大したカラマツ雌花



顕微鏡で拡大したカラマツ雄花



カラマツ球果(パイナップル?)